

| タカラコロラボ 第19回・第2期第2回TaCoLAB(宝塚市協働のまちづくり推進会議) 議事録 | |
|--|---|
| 開催日時 | 令和8年(2026年)2月20日(金)10:00~11:30 |
| 開催場所 | 会議室A |
| 次 第 | 1 開会 2 議事 (1) 今期について (2) 協働の事例集の周知・活用について (3) つながりカフェ TaCoLAB について 3 その他 4 閉会 |
| 出席委員 | 田中会長、橋之爪委員、岡田委員、永崎委員、松村委員、龍見委員、平岩委員、大関委員、山本委員、梅田委員 |
| 開催形態 | 公開(傍聴人なし) |

1 開会

事務局から、本日の出席者は10名であり、宝塚市協働のまちづくり推進会議規則(以下「規則」という)第5条第2項に規定する過半数の出席要件を満たしているため、会議が成立していること、及び傍聴希望者はいないことを報告した。

2 議事

(1) 今期について

ア 今期の取組みについて(第1期からの申し送り事項)

イ 協働の事例の収集・検証～協働のまちづくり推進条例の検証までの進め方について

(ア) フローチャート(今後の進め方)案について

表記について事務局より資料に基づき説明を行い、意見交換を行った。

(ア) 案①は同時進行で進めていくとのことだが、1回の会議が1時間半しかないのにできるのか。

(イ) (事務局)ある程度進め方についても、前期の事例の検証でどう進めていくかという手順が生まれると思うため、1からだとすべての時間を詰めていかないといけないこともあると思うが、前期である程度検証の進め方を整理しながら進めていくことで、限られた時間ではあるが同時並行は可能かと考えている。その分時間も少し長めに取っている。

(ウ) (会長)来年の3月に宝塚市協働のまちづくり推進条例(以下、推進条例)の検証を終えた状況で、その後事務局で調整し、議会に諮って推進条例を改正するのかわからないのか検討していただくため、終わりは令和9年3月である。そこまでにしっかり話ができるかどうかというところで、1回の会議で長く時間を取りたいと(ア)委員がおっしゃられていて、ある委員とお話し

たときにも意見が挙がり、皆さんのご関心がいっぱいあると思うので、効率的でじっくりと話し合えるようにしたい。

(エ) 何をどう検証するのかについて、後期の事例の進め方についても、前期の事例をやったときに時間をかけすぎたところもあったので、そういうところを効率化しつつ、いかに無駄な時間を使わずにやっていくかというのを検証だと思う。第1期の時はいろんな記事を1回の会議の中でやっていたが、それだと前回やったことを忘れてしまって振り出しに戻っていたこともあったので、最初の3回はこれだけやるというような形でやるのはどうかと提案させていただいた。

(オ) (会長) 私も同じ考えで、前回の時はつながりカフェはまだ始まったばかりで、なかなか合議が出来なかったが、今回はある程度軌道に乗りはじめて集中して議論するところとそうでないところがわかってきたかと思う。その点で皆さんが思っていることも一緒に意見を出し合いながらやっていきたいと思う。

(カ) (事務局) 第1期からの申し送り事項について(ア)～(エ)を紹介させていただいて、(ア)～(ウ)までは重点的に時間を置く課題だと考えている。プラスでつながりカフェの報告や検証というところは、時間配分は(ア)～(ウ)をメインにして、つながりカフェの部分は残りの時間で報告等させていただく形で進められたらと考えている。先程お話された事例の進め方についても、時間軸はこの期間で1つ完成させるイメージを持ちながら進めていくことで、ずれていくことを防いでいけたらと考えている。推進条例の検証も来年の3月までで、その後議会等に諮って手続きを進めていくことになるので、思いとしては第1期からの申し送り事項だけでなく、皆さんの中でも何か取り組みたいことがあると思うので、来年の3月くらいまでを1つの目安としてスケジューリングさせていただいている。

案①で進めて良いか。

(キ) (委員) 異議なし。

(ク) (会長) 話し合える時間をしっかり取れるように毎回プログラムを工夫したり、凝縮して進めてほしい。

(ケ) (事務局) 承知した。その前提で、案①でスケジュールを組んでいく。

(イ) 協働の事例検証のイメージについて

表記について事務局より資料に基づき説明を行い、意見交換を行った。

(ア) 「第1地区ネットワーク会議にこりたす1DAY」を例にあげると、いろんな団体が合同で年1回のイベントを開催するのに、総会や動き出す時期が違うので、時期の調整が難しいと思う。最終的にこの時期にこれをしようと、いつどこでだれが決めているのかが見えたなら進め方のポイントとして嬉しい。参加のハードルは下がっているが、役割分担や実行委員会形式なのか、

運営委員会の回数、組織形態などのイベント実施までの流れが分かるともう1つ前に進むと思う。

- (イ) (会長) 役割分担も含めて重要だと思う。
- (ウ) 自治会がいくつあるかわからないが誰が参加しているのか。地域団体とはどういう団体なのか、地域によって違う。個別の小学区のことをよく知らないで、イメージが湧きにくく、言葉だけでは規模の想像がつきにくい。
- (エ) 私が事例のインタビューをしたときに、記事でも少し触れているかもしれないが、組織形態もそうだが、あて職がどれくらいいるのかをインタビューで聞いた。実際やりたい人はどれくらいいるのかだったり、組織の雰囲気を知りたかった。
- (オ) (会長) 1人に集中しているかどうかとも知りたい。
- (カ) 組織形態という項目はいいと思う。
- (キ) まず事例の記事を読んでもらった上で今の質問が出たのかわからないが、配布資料だけを見るといろいろ質問が出てくると思う。実際は、第1地区ネットワーク会議という主体があって、そこから派生してにこりたす1DAYという実行委員会ができた。先程の質問に答えると、時期の決め手は、夏は暑く、10月になると学校行事が重なるため、9月の第4土曜日になった。
- (ク) 合意形成のかたちはどうなっているのか。
- (ケ) 合意形成のかたちは、社会福祉協議会と行政、自治会連合会第1地区の役員、まちづくり協議会、民生児童委員の協力会議というところで大体決めて、最終的にはにこりたす実行委員会の中で決めた。また、誰かに役割を割り当ててではなく、仕事があると大体実行委員会の中で自ら手を挙げてくれて役割を分担していった。

この事例集は市ホームページに公開されているが、どんどん更新してほしい。この事例は2年前の第1回のイベントのときで、現在は第3回まで実施した。ホームページを更新できるなら、常に新しい情報が反映されていくべきだ。去年は620名参加して、参加団体が31団体だったので、イベントをやり切れるのか心配だった。冊子の協働の事例集は長い間更新しておらず、今回更新した事例はホームページ上で見られるようにフォーマットも決めたので、ある程度の時間がたったら更新して、もしくは主催団体側から変更点を情報提供してもらうことで、常に新しい事例をホームページで見られるようにしたらいいと思う。誤解されて読まれてしまったら元も子もない。イベントの振り返りをどんどんしているし、やり方も更新している。前は人を集めるのが大変だったが、今は自然に寄ってくる。場所を決めており、システムが簡素化し、人が入りやすい状況になっている。情報は更新しないといけない。インタビューして記事を作成するだけで終わると、今このグループは何をやっているのか、せっかく電子データ上で更新できるシステムだから、しっかり更新することだけお願いしたい。

- (コ) (事務局) (ア)委員がおっしゃっていたことについて、今回参考として資料3-2で、これまで取り上げた事例の主体や背景を載せた資料をお配りしているので、今後ご覧いただけたらと思う。
- (ケ) 委員からお話いただいた事例集の更新については、新しい事例集を更新していくことも大事だが、今まで取り組んだ事例記事の時間軸を更新していくべきというお話だったかと思う。そこに関しては課題の1つと考えており、どう更新していくのがいいか皆さんとお話しながら取り組んでいけたらと考えている。
- 検証の項目について、「(4) うまくいったポイント」と書かせてもらっている。市職員で話し合ったときに良かった点や悪かった点を項目に入れるという意見があったが、率先してお願いしていることに関して悪かった点は書きにくく、困ったことは書けると思うが、ダメだったところの指摘というよりは上手にいったポイントを他の人たちにも参考にしてもらってどんどん取り入れてもらったらいいのではないかというところで、(4)は「うまくいったポイント」に絞って書いたらどうかと考え、記載している。
- (サ) 今後の展望のところに、悪かった点をしっかりと把握して、改善できるところに視点を変えて、次回への改善点を今後の展望に付け加えたらどうか。
- (シ) 悪かった点というより課題はあると思う。
- (ス) 全部成功はありえないから、どこかに何か改善点や課題は絶対あると思う。
- (セ) (会長) (5)の項目としてそれを加えるのはどうか。論文でも事例を書くが、最後にまとめて今後に向けてできなかったことを課題として示す。次の研究者に伝えてバトンタッチする意味でも重要だと思う。悪かった点ではなくて自分たちが課題として感じていることは、活動者の認識としても重要だと思う。次にバトンを繋ぐイメージで、悪かった点という意味ではない。
- (ソ) (事務局) 活動団体が持っている課題が何かを聞き出す必要はあると思うが、事例集の中で課題を書いているものもあれば、書いていないものもある。書いてあるものについては、その団体さんがそう思っているから検証できるが、事例集に書いていない場合は、審議会の中で課題を決めつけることはできない。
- (タ) (会長) 事例集に課題を書いていない場合は、ヒアリングをするのか。
- (チ) (事務局) 課題を検証項目に入れるのであれば、もしかしたら記事には書いていないがインタビューで質問しているかもしれないので、そこを洗い出して、団体が考えている課題を入れることになる。インタビューで聞けなかった場合、入れるとしたらヒアリングすることになると考えている。また、前期の事例だと、委員の皆さんと関わりがある事例が多かったので、この会議の場で検証しながら課題をお話いただけたらと思う。できない部分についてはまたヒアリングしたり抽出したりして、課題の項目が必要であれば

ば入れてもいいと考えている。

- (ツ) もう1段皆さんとピントを合わせておきたい。議事の(1)アを最初に説明いただいたところで、ゴールが推進条例の検証である。協働のマニュアルと推進条例が既にあるので、これの内容を検証するのがゴールで、そのための事例の検証をいう視点を確認として合わせておきたい。協働のマニュアルがどういうものなのか、推進条例がどういうものなのか、私もちゃんと読めてはいないので、家でしっかり読んで実際に事例を検証しているときに、協働のマニュアルに書いてあるけどどうもいかなかったことが実際あるのかといった物差しのような形で協働のマニュアルや推進条例を使いながら検証する方がやりやすいのではないかと考えている。
- (テ) 1つ1つの事例を検証すると、その活動の課題にどんどんなっていくかもしれない。私たちがやっているわけではないので、協働というポイントが6つの事例でどうだったのかのように、トータルで捉えたほうがいいのではないか。
- (ト) (会長) 条例も作っただけでなく、手入れをしていないといけない。そのまま置き去りにされてしまうと困ってしまうので、(ツ) 委員がおっしゃったように、最終地点は推進条例の検証で、協働マニュアルの検証は個別の対応だと思う。その仕分けを考えつつ最終に向かっていかないといけない。
- (ナ) (ツ) 委員がおっしゃっていたことを聞いて、1つ1つの事例を私たちが改善していくのかと疑問に思っていたので、ゴールが明確になってありがたい。このイベントを私たちが良くするための会議ではないことを、毎回の会議で思いながら挑みたい。
- (ニ) (会長) ゴールがどこなのか最初は私も曖昧だったが、(ツ) 委員がおっしゃってくれたように最終地点は推進条例や協働のマニュアルを検証することを弁えて判断していきたい。
- (ヌ) 協働のマニュアルができてから、推進条例をつくった。推進条例の作成にかかわっていたため、この条例の中身はよくわかっているつもりである。協働のまちづくり促進委員会で推進条例の原案を作成したがまだ不満がある。今のまちづくりでまちづくり協議会をメインに考えたときに、実態と推進条例と協働のマニュアルが合っていない。作成当時から全国のまちづくり協議会を調べていくと、推進条例は焦点が合っていない気がしている。この会議で推進条例や協働のマニュアルの中身を少し変えたら、まちづくり協議会はもっとやりやすくなると思う。
- (ネ) 協働のマニュアルどおりにしているということか。
- (ノ) 協働のマニュアルどおりではなくて、協働のマニュアルが不完全だから実際と違う。
- (ハ) 協働のマニュアルを参考にしているのかしていないのかの前提も関係あると思う。

- (ヒ) 協働マニュアルに書いてあることと違って、実態は動いている。
- (フ) マニュアルにはこう書いてあるが、我々はマニュアルと違うやり方でやっとうまくいっているからそれでいいのではないかという場合もみられる。
- (ヘ) 前提の整理のところでもマニュアルはなぜ誰のために作ったのか、どういうタイミングで見ると確認が必要である。
- (ホ) 作ったときの動機は、こういうものだとして理解を深めるために作ったが、作られた側からそうではないという意見がたくさんある。
- (マ) マニュアルを作っていた時期は協働が始まった段階で、こういうものだと示すためのもので、皆さんはその先に進んでしまっているのではないか。そのため、マニュアルとして皆さんにやり方の参考にしてもらうのは古いかもしれない。
- (ミ) 古いというよりか、考え方として当時作ったものが合っているのかどうかを検証するべきだ。
- (ム) (会長) マニュアルを見直して、その結果から推進条例を見直した方がいいということか。
- (メ) かつてまちづくり協議会がコミュニティと言われた時代が最初にあり、協働という言葉が出てきてマニュアルを作ったがうまくいかず、推進条例を作ろうとしたときに関わった。方向性に疑問を持っていたが、そのまま委員会で話が進んで推進条例が出来た。
- (モ) (会長) 今改めて見てもすごくいい条例だと思う。
- (ヤ) 『「気づき」から生まれる宝塚のまちづくり』に、推進条例をいつでも見られるように入れた。市のホームページから見ると堅苦しく感じるが、この冊子だといつでも眺められる。実態がまちづくり協議会の組織ごとと違い、それぞれが一番やりやすい方法でやったらこうなったものの最大公約数を求めたら、まちづくりがどういうものか見えてくると思う。
- (ユ) 協働のマニュアルを作成したとき、その時代に適応したことが載っていると思う。しかし、十数年たった今(ヌ) 委員がおっしゃった様に実態と合わなくなってきているのが現実だと思うし、組織形態についても各まちづくり協議会によってやりやすい形をとって、基本的な組織運営のはめ方はできている。
- (ヨ) (会長) 実態は変わっていくので、そういうことも議論していかないといけない。今までどうだったかも検証していかないといけないため、貴重なご意見をいただけて有難い。イメージも明確になってきたと思う。検証項目の(5)に「今後の展望」を入れていいか。
- (ラ) (委員) 異議なし。
- (リ) (会長) また、組織体制についてはどこに入れるか。
- (ル) 資料3-2を見ると結構具体的に書いており、大体抑えられているので、入れなくてもいい。

- (レ) (事務職) 今日ですべて決めるということではないので、次回にご意見いただけたらと思う。
- (ロ) (会長) 承知した。

(2) 協働の事例集の周知・活用について

標記について事務局より資料に基づき説明を行い、意見交換を行った。

- (ア) (会長) 周知方法について、冊子のときは冊子を配架するだけで終わってしまい、今回はいろんな方に見てもらうためにはどうやって工夫するべきか。
- (イ) 事例集を周知することのゴールがないと話していた。市民協働推進課から、せっかく作ったのであれば周知しようということだったので、それであればどうなったらいいのか示してほしい。
- (ウ) (事務局) 先程ピント合わせ頂いたように、この取り組みの中で推進条例の検証が1つのゴールである。推進条例というのは理念になっていて、それを協働のマニュアルという手法を使って具現化したのが事例集になっている。理念に基づいて具現化したものをどう届けていくか、せっかく皆さんがやっていることを置きものにするのではなく周知していくことは大事な1つの方法かと考えている。私たちも周知することが目的ではなく、見ていただくことで、取り組んでおられる団体自身のモチベーションアップにつながるだろうし、現状ホームページの閲覧数が数十件程度で、まさに作ったものが置物状態になっているため、まずは届けて目にしてもらおうところから始めたい。周知方法はいろいろあると思うので、皆さんにご協力いただきたい。アクセス数についても、現時点から取り組んでいくことでどう伸びていったかを追うことができる。しかし、いろいろご意見をいただく中で、見たからすぐにつながることはならないと思うが、誰の目にも触れられていないのは大きな課題と考えているため、まずは見てもらいたいというところを市として広げていきたい。
- (エ) チラシ(案)を見て思ったが、ここにいるメンバーは協働についてよく知っており、コアメンバーだと思うが、一般の方にとっては、『協働の事例集』と言われて、しかもその上に『すべての施策と実行は市民のため』とあると関係ないと思われる。もうすこしかみ砕いた言葉の方が手に取りやすい。『一緒につくる未来のかたち』と言われてもピンとこないと思う。入口して事例集を見られるのであればもう少しかみ砕いて、「こんなに頑張っている人がいるよ。これが協働なんだよ。」というのがわかるようなチラシにした方が、入口としてはいいのではないか。
- (オ) (事務局) もう少しかみ砕いた表現にする。
- (カ) お祭り1つしても、私も行っていいのかと問い合わせがくる。年齢層関係なく誰でも今すぐ来てくださいと答えているが、みんな自分が一員であると分かっていない。自分に関係あるチラシだと思わせてほしい。実際に、自治会

の役員がまちづくり協議会の部会に来ると、「部会でこんなことやっている」と知らなかった」と自治会役員の任期が1年で変わるから毎年続く。あなたのことなのにあなたも参加できるのに伝わらないのが本当に悔しい。残ってほしいのに残ってもらえない。民生委員になってほしいのになってもらえない。1年限りのお仕事で次に続かない。チラシを見ても自分の事と思わない。だから自分事とわかる一言が欲しい。

- (キ) (会長) それも協働なので、この会議でチラシの言葉を考えてもいいと思う。
- (ク) このチラシは協働をしたいと思っている人でないと見ない。
- (ケ) (会長) 学校の先生にも見てほしいと思う。何かいいキャッチフレーズはないか。
- (コ) 何回か前の会議にこのタイトルを決めたと思う。話が行ったり来たりしているが、協働の事例集が入っていきにくいと思う。入っていきやすい言葉があって、その下に『一緒につくる未来のかたち』にして、『協働の事例集』は小さくしてもいいと思う。
- (カ) 協働の事例集はサブタイトルでもいいと思う。
- (シ) 今この話をした中でもターゲットが異なり、参加者向けと協働をしたい人向け、チラシには『みなさんが何かをしたいと思ったとき、あるいは何かをしなければと考えたとき』とあり、もうすでにバラバラである。一旦ターゲットを確定しないと、この手段というのは決められない状態かと思うので、まずはこれをみんなで考えたほうがいいのかと思う。
- (ス) こういった事業をするときに必ず考えるペルソナをしっかりとした方がいいのではないか。
- (セ) 第1期の時に担い手は誰かについて話し合った。私がこの会議で話し合う担い手は何のことかを、もう一回定義し直した方がいいと思う。
- (ソ) (会長) 私が印象に残っているのは、ある委員が担い手という言葉が上から目線で好ましくないとおっしゃっていた。それから担い手という言葉の使い方などを考えるようになった。今日するとかではなく、担い手について議論しながらチラシを作っていくといけなく、議題の中でどう伝えていくか考えていけなくといけなく。
- (タ) 活動したい人というターゲットが狭くなってしまふ。まちづくりや協働をしたいという意識がない人にも、面白そうなことやっているなで手に取れる情報誌は結構あるし、目指すのはそっちだと思う。
- (チ) それを言語化したい。
- (ツ) (会長) それも話し合ひましょう。
- (テ) まちづくりってすごく身近だと思う。3年くらい前に宝塚市とやった事業で、若者で活動したい人が集まって、まちづくりのことをよく知る先生に話していただいたときに、1人のお父さんが参加されていて、子どもたちと竹を割って流しそうめんをしたいと言っていた。自分の子だけでなく近所の人も誘

ってイベントにしたいがどうしたらいいかと先生に相談すると、まずは公園の中で家族でやっている前提で始めたら、子どもは絶対寄ってくるため巻き込んでいったらいいとお話されていた。それがまちづくりだとおっしゃっていた。それを聞いて、やっぱりまちづくりってすごく身近だと感じた。身近だと思わせないと、チラシを手にとってくれないと思った。

- (ト) まちづくりから勉強しないといけない。ここにおられる委員の方を含め、協働のマニュアルをまず見てもらって、協働とは何か、担い手とは何か、マニュアルから学習していただきたい。
- (ナ) できればお1人ずつ協働をどういう風に考えているとか、自分がどういう解釈をしてどう仕組んでいるとか、どのように実装しているかという話からでも面白いと思う。
- (ニ) この言葉は何も宝塚市に限ったことではない。法律上の言葉だと思う。最初、パソコンの変換には出てこない。
- (ヌ) どこの市でも協働と言っている。
- (ネ) それぞれの思う協働がある。
- (ノ) 一度マニュアルを見直していただいて、何が書いてあるかというところからやっていきたい。
- (ハ) 協働という言葉が私が知ったのは30年くらい前である。その当時、大阪府で協働という文言が行政に入ってきていた。長いけれども、中身がわからないのが現実だと思う。
- (ヒ) (会長) これは今日話し合うということではなく、こういうことを考えましようということで継続審議ということでもいいか。
- (フ) (事務局) 1つは、事例の検証の締めはオープンになっているので、濃縮した時間をあまりかけない中で揉んでいけたらと思う。
- (ヘ) (会長) 承知した。

(3) つながりカフェ TaCoLAB について

ア 1月の開催結果報告

イ 今後の開催予定について

標記について事務局より資料に基づき説明を行い、意見交換を行った。

- (ア) (会長) 1月の開催結果報告について、参加された委員から雰囲気も含めてお話しただけたらと思う。
- (イ) 初めて参加の方が4名おり、ピピアめふの2階フリースペースで開催した。周りではピピアめふを利用しているお客さんか休憩されている場所の一角で、席が変わってもらったりしていて申し訳なかった。始めて来られた方は、まちづくりのことを勉強しに台湾から来られた方と、高校生のお子さんの子育てについて悩んでいるお父さんが参加してくださった。台湾の方になぜ日本に、しかも宝塚に来たのか聞いたところ、日本は少し進んでいる認識がある

らしい。それこそ協働みたいなものなのか何かしら勉強されていて、ワールドワーク目的で日本に来られて、宝塚だけでなくほかにも色んなところに行っているとのことだった。北海道と静岡に行って、宝塚市が最後とのことだった。今は雲雀丘のシェアハウスで暮らしていて、そんな場所もあるんだという話もあって面白かった。国際交流もあるが、ご本人はまちづくりのことに興味があった。

- (ウ) 日本語は達者だったのか。
- (エ) すごく達者だった。難しい日本語も行政用語も伝わっていて、すごく勉強されていると思った。
- (オ) 台湾の方にはもちつきにも来ていただいた。うちのまちづくり協議会の中国語できる人と中国語で会話していた。つながった人もいたけれども、子育ての方やもう1人私の隣に座っていた方は、つながりカフェの趣旨に合っていたのかなと感じて、つながりたくて来てくれたのはいいが、その方たちにとって良かったのか心配である。活動したい人と話す場なのか、ただ人としゃべる場なのかすみ分けが難しかった。
- (カ) 悩み相談みたいな感じだった。毎回こんな感じでもなく、回によって全然違う。がっつり活動相談をするときもあるし、どちらかという雑談の時もある。参加された方の雰囲気によって変わって、どれでも対応できていると私が参加した中では思う。誰でも参加していいのかと感じる人もいらっしやるから、そういう方が逆にこういうのに来て何をしゃべるのかは気になる。
- (キ) 雑談は雑談でいいが、活動したくて来た人と、聞きたくて来た人と、自分の怪我の話の人がいた。
- (ク) 空想的にあまりみんな興味ないと思うと控えめになっていく。興味ある方を質問していくから、流れ的にそこまで気を使っはらない。
- (ケ) (事務局) もともとつながりカフェを実施することになった経緯として、プレイヤーづくりや話し合える場がないところからスタートしているところもあるので、一定幅広くテーマ無しでその時の雰囲気というのも1つだし、まちづくりに関してプレイヤーの話にするなら今出しているチラシにもそういうキーワードをもう少し強めに出して、来ていただける方を絞るのもありだと思う。しかし、絞りすぎて誰も来なくなると意味ないという意見もあったので難しい匙加減だと思っているが、委員さんの中で何か疑問に思われているところがあるのであれば、内部で工夫していくのはありだと思う。
- (コ) (会長) 老後の話などいろんな話題が出てきている。まちづくりは複合的な分野が重なっているなので、いろんなことを勉強しないとついていけないけれども、活動するにおいても誰がどういう風に困っているのか何を求めているのかを聞くことはありがたいと思っている。いろんな話が出てきているので、ファシリテーションの能力がある人がやっていると感じている。そういう人がたくさん育っていけばそのすごくいい。

さらに、留学生の方が1回始めて来て、もちつき大会に参加したということは望むべきことだと思し目標を達成できていると考える。たまたまかもしれないし、声かけてくださった方がいるからつながっていくのかもしれないが、そこから始まっていくので、これはすごい。

- (サ) (次回つながりカフェに参加するので、) 次回が楽しみ。
- (シ) (オ) 委員は彼女に対してしっかり PR をしたので、そういう結果につながったというところの方が大事だと思う。つながりカフェがただ雑談で終わってしまったのは、自分が何もしなかっただけで、何かにつなげたいという目的を自分の中で持っている、いい人に出会えた時にちゃんとアプローチができる。売布の場合は、ちょうどいいタイミングでもちつきというイベントがあって、(オ) 委員がちゃんとチラシを持ってきていた。
- (ス) (会長) チラシを持ってきていても、渡すのと渡さないのでは違う。
- (セ) 渡すのにもすごく勇気があるし、活動をやりたい人やすごい興味がある人がいるときに、誰がどうアプローチするかがご縁で、その時誰がどんなことを持っていたかでいろんなことに出会えるのが面白いと思ったので、これからつながりカフェ来られるときは、もしこういう人がいたらこれを渡そうという何かアピールポイントを持っていくといいと思った。
- (ソ) 私は第11回つながりカフェに行ったとき、そこで出た話が活動できる場所がないとのことだった。私の住む地域で場所がないと言っていたので、うちの集会所を見てもらおうと、1週間後に2人そろって来た。名刺と連絡先を交換して、やるときはこちらの予定もあるから予約してほしいと連絡した。すごく感激して帰ったが、その後レスポンスがないから不安である。
- (タ) それも偶然で、私が連れて行った時が(ソ) 委員も参加していた時だったので、(ソ) 委員のリソースを提供していただいた。すごく喜んでた。
- (チ) 自治会長が主催することにしたなら、無料になることもお伝えした。空手の練習なども、私の承認でやっている。ああやってお話をしてくれたら何か手助けができると言える。とても積極的な方だった。
- (ツ) そもそもつながりカフェに来る人が積極的だと思う。誰がいるかもわからないのに、積極的でなかったら来ない。不思議なくらい行動力があると思う。
- (テ) (会長) きっとどこかにいるんでしょうね。
- (ト) 今回3人の内2人は、市のLINEを見て来たと言っている。
- (ナ) 市のLINEで初めて流したのか？
- (ニ) (事務局) LINE自体は今までもやっていたが、リッチコンテンツで流すようにした。
- (ヌ) そうというのが効果検証ですよ。
- (ネ) 代理でとはどういうことか。
- (ノ) もともと来られる予定の方が来られなかったの、代理で来てくださった。子育ての話などにも参加して下さってよかった。

- (ハ) (事務局) LINE は効果があって、手を挙げてくださったが当日来れなかった人もおり、ここには見えていないところもある。
- (ヒ) 次回来てくれるといい。
- (フ) リピートで来られる方はいるのか。
- (ヘ) (事務局) ゲストかもしれないが何人かいる。
- (ホ) 私が誘う人もリピーターだが、さっき連絡が来て、3 階だからダメですかと連絡がきた。階段が落ちそうになる。市の LINE はよく見ている。
- (マ) 私も見、日にちをチェックしている。参加者になる前に委員にステップアップしてどうなるか。またネタを持っていく。
- (ミ) (事務局) よろしくお願いします。
- (ム) (会長) 非常にリアルなお話を聞けて有意義だった。

3 その他

4 閉会

以上